

令和4年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立多摩工業高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局 主幹教諭(教務主任兼務)＝事務局長、教務部員1名 計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務主任兼務)、主任教諭(生活指導主任兼務)、主幹教諭(進路指導主任兼務)、主任教諭(学校運営部主任兼務)、主幹教諭(4科工業科主任及びデジタル科主任兼務)、書記(新規採用) 計9名
- (4) 協議委員の構成
元大学教授、近隣自治会会長、市教委係長、近隣中学校長、地元企業部長級、同窓会会長、警察署課長級、消防署出張所長、PTA会長 計9名

2 令和元年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会
 - 第1回 令和4年6月23日(木) 内部委員9名、協議委員7名
分掌の組織目標及び1学期の行事報告および新型コロナ対策。
 - 第2回 令和4年11月24日(木) 内部委員9名、協議委員6名
令和4年度入学選抜や募集対策、2学期の行事報告、3学年進路の進捗状況報告
 - 第3回 令和5年2月10日(金) 東京での大雪で警報が発令された為、書面開催
入学者選抜の募集対策結果および令和4年度推薦入試倍率と学力出願状況、進路状況、学校評価アンケートの集計結果など
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和4年11月25日(金) 内部委員2名、協議委員2名
アンケート調査用紙、質問事項の確認および集計方法について書面で行う。
 - 第2回 令和4年2月10日(金) 東京での大雪で警報が発令された為、書面開催

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

- (1) 学校評価の観点
「学校の認知、理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

(数字：人数、回収率：%)

	令和元年度	令和2年度		令和4年度(Formsによる)		
				配布数	回収数	回収率
生徒	99%	100%	100%	503	407	80.9%
保護者	64%	33%	74.9%	503	192	38.2%
教職員	61%	100%	100%	58	58	100%
地元自治会 企業	100%	75%	100%	6	6	100%
中学生	100%	100%	100%	63	63	100%

- (3) 主な評価項目
・学校全般の印象に係ること。

- ・学習指導、生活指導、進路指導、特別活動に関すること。
- ・防災教育・健康・安全指導に関すること。
- ・開かれた学校への取り組みに関すること。
- ・働き方改革に係ること。
- ・教職員研修の実施状況の把握状況

(4) 評価結果の概要（学校及び校長への意見・提言内容）

- ・「入学してよかった」という設問の結果では、生徒は79%が本校への入学を肯定的に受け止めている。また保護者は98.9%となり学校への期待感が見られる。
- ・「部活動は活発」だと思ふ生徒は、77.4%で、5年連続で増加している。
- ・「家庭ではどのくらい勉強していますか。」という設問では、23.8%で減少傾向だった。家庭学習の定着を学校・保護者等で考え、生徒に意識づけする必要がある。
- ・「分かりやすい授業が多い」と思ふ生徒は、75.4%だった。昨年度に比べ10%増加した。過去五年間では平均6割前後が続いているが初めて7割を超えた。ICT機器を活用した授業や、一人一台パソコンの活用により、生徒の理解度が上がったと考えられる。また、ICT機器を活用した授業の割合が昨年度より格段に増えたことが原因であると考えられる。オンライン授業やプリント学習を補う教員が多く、生徒の理解度に大きく影響したと考えられる。
- ・本校で学力が伸びたと思ふ生徒は65.1%、学力が伸びたと思ふ保護者は77%だった。生徒は10%保護者も5%増え、理解度が上がっていることが伺える。
- ・「相談できる先生はいますか」と思ふ生徒は、63%だった。さらに教員に対する信頼関係を高めるために、生徒へのガイダンス機能を高める工夫が必要である。
- ・「この1年で防災意識は向上しましたか？」の質問に昨年度より12%近く増加した。防災訓練や避難訓練の実施、防災訓練では数多くの体験活動が実施できたからだと思われる。
- ・「就職に関する指導を多く行なわれている」と思ふ生徒は90%と高い数値を示している。就職希望者の第1回目で就職が決まった生徒の割合が昨年に引き続き90%を超えた。また、「資格取得に関する指導を多く行っている」と思ふ生徒も89.2%と高い結果だった。資格取得を多く行えば進路は開けると感じている生徒が多いと思われる。他の工業高校と比較しても例を見ないほど高い数値となっている。このコロナ禍で学校をあげて一貫した生徒指導が進路実現に繋がっていると思える。
- ・生活指導上のことで「厳しい指導」だと思ふ生徒は63.6%、保護者は50%と生徒は3%増え、保護者は3%減った。保護者と生徒の数値が近づいてきている。いつでも面接試験に臨める服装であることや、安全に実習が行える観点から生活指導を実施している結果であると推察する。
- ・自治会や地域のアンケート回収率は高いが、回答数があまりにも低い。今後、地域のアンケート回収方法について検討する余地がある。

(5) 評議委員からの意見

参考資料 参照

(6) まとめ

令和4年度は新型コロナウイルス感染症により、学校運営も規制の中で進めた。学校行事は体育祭、文化祭、校外学習が時期変更や内容を変更したり、体育祭は天候に恵まれなかったが、文化祭では食品販売は出来なかったが、ほぼ制限のない文化祭を実施できた。3学年同時に実施であり、生徒も大変充実した文化祭が出来て、保護者共々満足したようだ。修学旅行は時期を延期し、内容変更して1日短いスキー修学旅行となったが、雪や天候にも恵まれ、3年間ほとんど学校行事を経験できていない学年としては満足のいく内容であったようだ。

学校運営連絡協議会は昨年も新型コロナの感染状況で開催や中止が決まったが、今年度は雪で警報が出たため2年連続の中止となった。3回目の大事な総括が書面開催となり残念な結果となった。今後も開催については新型コロナウイルス感染症拡散防止対策（教育委員会ガイドライン）に基づき開催方法を検討する。

学校評価アンケートで中学生によるアンケートを、今まで福生市立福生第三中学校の生徒さんのご協力を得ていたが、今回より学校説明会に参加した中学生にアンケートをしてもらう事に第2回の学校運営連絡協議会にて決定した。しかし、決定した後の学校説明会は推薦入試間際の1回のみの為、有効回答数が少ないが、来年度のアンケート数に期待する。また、昨年度は保護者の回収率が著しく低くなっている。回収方法を Forms 利用した回収を試験的に取り入れた。回収率は下がったが、集計の労力が半減し、担当者のストレス軽減には貢献できた。回収率を上げる為の方策を今後検討する。